

広島地協連絡会 慰霊碑めぐりガイドブック

原水禁世界大会参加のみなさん、広島地協連絡会の仲間の皆さん、平和を祈念するすべてのみなさん。「次世代に平和を語り継ぐのは私たち」との思いで簡単なガイドブックを広島地協連絡会「平和のとりくみ実行委員会」でつくりました。平和公園の内外には 60 近くの慰霊碑・記念碑・被爆建物があり、ほんの一部の紹介となりますが、平和学習の一助にいただければ幸いです。

〈広島平和記念公園〉 公園設置日 1956（昭和 31）年 4 月 1 日

現在の平和記念公園一帯（中島地区）は、江戸時代から陸海の交通の要衝として栄えていました。また、明治になると、市庁舎、県庁舎のほか、広島の物流の拠点となるなど、政治・行政・商業の中心となりました。

被爆時のこの地区 7 町の住民は、合計で 6,500 人と推定されています。

1945（昭和 20）年 8 月 6 日、人類史上初めて投下された原子爆弾は、この地区の頭上で炸裂しました。地区の住民はもとより、当時この付近で建物疎開作業に従事していた多くの国民義勇隊や動員学徒が非業の死を遂げ、街並みも一瞬のうちに消え去りました。

1949（昭和 24）年 8 月 6 日の「広島平和記念都市建設法」の制定にともない、この地区一帯は平和記念施設として整備されることとなり、現在の平和記念公園に生まれかわりました。

公園面積は約 122,100 平方メートル（約 37,000 坪）。設計は、丹下健三・東大助教授（当時）ほか 3 名の共同作品で、設計競技による 145 点の中から入選したものです。

公園の南端には、広島平和記念資料館（東館・本館）と並んで、広島国際会議場があります。



相生橋から原爆ドーム(左岸)-元安川-平和公園(右岸)を望む

① 峠三吉詩碑

建立年月日

1963（昭和38）年8月6日

建立者

平和のための広島県文化会議、
峠三吉詩碑建設委員会

詩文

表：三宅一子

裏（英訳）：大原三八雄（みやお）



形状

コンクリートに黒玉石を埋めた台座に高さ70cm、幅110cm、厚さ50cmの黒みかげ石が置かれ、表に峠三吉の詩文、裏面には詩の英訳が刻まれている。

建立の目的

占領軍の弾圧に屈せず、最期まで活動を続けた峠三吉の勇気と平和への熱意をたたえるとともに、彼の遺志を継ぎ、核兵器廃絶の決意を新たにする。

碑文

「ちちをかえせ　ははをかえせ　としよりをかえせ　こどもをかえせ　わたしをかえせ
わたしにつながる　にんげんをかえせ　にんげんの　にんげんのよのあるかぎり
くすれぬへいわを　へいわをかえせ　峠三吉」

1. 峠三吉

峠三吉は28歳の時、爆心地から3km離れた翠町の自宅で被爆しました。戦後、青年運動・文化運動を通じ次第に平和運動の先頭に立つようになり、原爆反対、平和擁護の作品を数多く発表しました。1953（昭和28）年3月10日、国立広島療養所で手術中に死去。享年36歳でした。

2. 『原爆詩集』

朝鮮戦争が始まり、占領軍による原爆反対運動への弾圧が激しさを増す中、トルーマン大統領の“朝鮮戦争に原爆使用もありうる”という声明に触発され、『原爆詩集』をまとめる決意をしました。この作品は、1951（昭和26）年ベルリンの全世界青年学生平和祭に、日本の代表作品の一つとして送られ、世界的な反響を与えました。

碑文はこの詩集の序として書かれたものです。

峠三吉と「原爆詩集」について

峠三吉は、1917年2月19日、大阪府豊中市に生まれ、広島で育ちました。子どもの頃から病弱で、文学好きな母親・ステの影響は峠一家に及びました。広島商業学校卒業後、発病（当時、肺結核と診断された）、入院と療養を繰り返すなかで、その思いを文学に求めるようになりました。

戦前は、長姉の影響でキリスト教受洗。短歌、俳句、詩を書き新聞や雑誌にしきりと投稿しました。この時期、日本は全面的な戦時体制下であり、峠三吉も他の日本人と同様、あの侵略戦争を「聖戦」としてそれらを謳歌するいくつかの作品を残しています。

1945年（28歳）爆心地より3kmの広島市翠町（現在の南区翠町）の自宅で被爆。直後、親戚や知人を捜し歩いて見聞した惨状を詳細に記し、その体験が『原爆詩集』の原型となりました。

敗戦後、広島青年文化連盟に参画、広島県庁での勤務や雑誌『ひろしま』編集のかたわら、1951年（昭和26年）には「にんげんをかえせ」で始まる『原爆詩集』を自費出版、原爆被害を告発しその体験を広めました。

広島詩人協会の結成、「われらの詩の会」の主宰、新日本文学会への加入、「反戦詩歌集」の発行などの文化・文学活動、被爆者団体の結成など、多彩な活動を展開。原爆・戦争、平和と文化、抵抗運動——まさに戦後・広島の平和・文化運動の旗手として燃焼させていきました。

峠三吉は自ら被爆者として苦しみ、詩人としては『原爆詩集』の刊行、子どもたちの詩を集めたアンソロジー『原子雲の下より』の編集、この二冊に短い生涯を凝縮し、その功績の特徴は、激動期のなか反戦・平和・反原爆のたたかいを文学的抵抗の中に内包・具現化していったことにありました。それは、象徴的・叙情主義的作風を脱却し、リアリズムを獲得するたたかいであり、社会変革と自己変革を結びつけ劇的変貌をとげる軌跡でもありました。

峠三吉は『原爆詩集』をふまえながら、より説得力をもつ作品の方向性をめざしたが、病気のためその生涯を36歳で閉じざるをえませんでした。

「原爆詩集」の「にんげんをかえせ」は、峠三吉の代表作であり、原爆をテーマにした詩の中で名作の1つとされている。正式な題名は「序」であるが、詩の中での記述から「にんげんをかえせ」という題でも広く知られています。

また、出生地に程近い、大阪府豊中市岡町北の市立岡町図書館玄関前にも、1995年（平成7年）、「にんげんをかえせ」の詩碑が建てられました。



②全損保の碑

建立年月日

1965（昭和 40）年 8 月 6 日

建立者

全日本損害保険労働組合広島地方協議会

設計者 組合員による公募

形状

長方形のみかげ石に碑文が記されている。

建立の目的

原爆の犠牲となった保険会社社員の慰霊のため。

碑文

「なぜ あの日はあった なぜ いまもつづく 忘れまい あのにくしみを この誓いを」



1. 保険会社の犠牲者

被爆当時、市内には 14 の保険会社に 200 人の社員が勤務しており、そのうち 89 人が犠牲となりました。

2. 原爆投下の犯罪性を鋭く指摘する碑文

戦後まもない頃の多くのモニュメントが占領政策の影響を受ける中、この碑は、原爆投下の犯罪性を鋭く指摘し、平和な世の中を築くための行動を新しい世代へと継承させることを呼びかけており、その意味で存在意義の大きいものとなっています。

3. 公募による碑

広島全損保労働組合が、この碑を建立するため全国の仲間に募金を呼びかけ、その際、碑文や碑の形も募集しました。碑文の作者は、被爆者である保険会社の社員です。

4. 碑の移設

広島平和記念資料館東館新築工事に伴い、1990（平成 2）年同館南側から北東の現在地に移設されました。

全損保の碑 盗難遺棄事件について

「全損保の碑」が 1989 年 7 月に台座だけを残し石碑部分だけが持ち去られ、広島刑務所脇にあった空き地に放置される事件が発生しました。この事件では犯行声明文が広島市役所記者クラブに送られ、犯人の右翼団体構成員は、碑文の「なぜ あの日はあった なぜ いまもつづく」を天皇制と資本主義に対する批判であるとして犯行に及んだと伝えられています。

③原爆死没者慰霊碑（広島平和都市記念碑）

建立年月日

1952（昭和27）年8月6日

建立者 広島市

設計者

丹下健三（当時・東大助教授）

形状

材質：みかげ石「黒髪石」（石室部分）

みかげ石「稲田石」（屋根部分）（1985（昭和60）年の改築工事まではコンクリート製）

形態：屋根の部分は、はにわの家型（犠牲者の霊を雨露から守りたいという気持ちからこの型にした）

建立の目的

世界最初の原子爆弾によって壊滅した広島市を、平和都市として再建することを念願して設立したもの。

碑文

「安らかに眠って下さい 過ちは繰返ませぬから」（雑賀忠義） 本人揮ごう

1. 碑文の由来

諸霊の冥福を祈る気持ちを誓いの言葉に結びつけることに苦慮した当時の浜井市長の命を受けた秘書係長が、碑文の古典研究に造詣の深い広島大学の雑賀忠義教授に碑文の作成を依頼し、翌日即決しました。

2. 碑文の趣旨

碑文については主語をめぐるさまざまな議論がありましたが、広島市は碑文の趣旨を正確に伝えるため、日・英の説明板を設置し、「碑文はすべての人びとが原爆犠牲者の冥福を祈り戦争という過ちを再び繰り返さないことを誓う言葉である 過去の悲しみに耐え憎しみを乗り越えて全人類の共存と繁栄を願い真の世界平和の実現を祈念するヒロシマの心がここに刻まれている」と記しています。

3. 原爆死没者名簿

中央の石室には、国内外を問わず、原子爆弾に被爆し、亡くなられた方の名前を記帳した原爆死没者名簿が納められています。名簿は関係者の申し出により書き加えられ、2010（平成22）年8月6日現在で、97冊（269,446人の名前が記帳された96冊と「氏名不詳者 多数」と記された1冊）になっています。

○「平和のとりくみ実行委員会」より

ドームの中心に立つと、「原爆ドーム」「平和の灯」「祈りの泉」が直線上に並びます。被爆建物の象徴、母の手の上に灯る灯り、噴水。原爆の犠牲になった人たちが最期に「助けて！お母さん！水！」と叫ばれた御霊への供養ではないでしょうか。



碑文の「主語」についての議論とは

原爆死没者慰霊碑の石室前面には、「安らかに眠って下さい 過ちは 繰返させぬから」と刻まれています。この文章は、自身も被爆者である雑賀忠義広島大学教授（当時）が撰文・揮毫したものです。浜井信三広島市長が述べた「この碑の前にぬかすく 1人1人が過失の責任の一端をにない、犠牲者にわび、再び過ちを繰返さぬように深く心に誓うことのみが、ただ1つの平和への道であり、犠牲者へのこよなき手向けとなる」に準じたものでした。

この「『過ち』は誰が犯したものであるか」については、建立以前から議論がありました。1952年8月2日、広島市議会において浜井市長は「原爆慰霊碑文の『過ち』とは戦争という人類の破滅と文明の破壊を意味している」と答弁しています。同年8月10日の中国新聞には「碑文は原爆投下の責任を明確にしていない」「原爆を投下したのは米国であるから、過ちは繰返させませんからとすべきだ」との投書が掲載されました。これにはすぐに複数の反論の投書があり、「広く人類全体の誓い」であるとの意見が寄せられました。浜井市長も「誰のせいでこうなったかの詮索ではなく、こんなひどいことは人間の世界にふたたびあってはならない」と、主語は人類全体とする現在の広島市の見解に通じる主張がなされています。

この後も、日本のみならず世界の学者や政治家、各種団体などにより碑文論争が繰り返されましたが、1970年、当時の市長山田節男は「再びヒロシマを繰返すなという悲願は人類のものである。主語は『世界人類』であり、碑文は人類全体に対する警告・戒めである」という見解を示しました。この見解が出されて以降、碑文の意図するところは、「日本」「アメリカ」といった特定の国の枠を超えて、全ての人間が再び核戦争をしないことを誓うためのものである、とする解釈が公式見解となりました。

以上の経緯を経て、「碑文の主語は人類」が公式見解となり、大きな論争は無くなったと見られましたが、現在も碑文は「日本人の過ち」と解釈される、もしくは「世界市民」という思想に批判的などの理由で、広島市側の見解が受け入れられていないという意見も存在しています。また、碑文の解釈に大きな論争が起きること自体、碑文の文章に問題があるという意見や、現在もアメリカ人の過半数は広島原爆投下を正しいと考えているのだから碑文の主語にアメリカ人を含めるのは妥当でないという意見も存在しています。

④原爆の子の像

建立年月日

1958（昭和 33）年 5 月 5 日（こどもの日）

建立者 広島平和をきずく児童・生徒の会

制作者 菊池一雄（当時・東京芸大教授）

形状

三脚のドーム型の台座の頂上に金色の折鶴を捧げ持つ少女のブロンズ像（平和な未来への夢を託している）が立ち、左右に少年少女の像（明るい未来と希望を象徴）がある。（高さ 9m）



建立の目的

佐々木禎子さんをはじめ原爆で亡くなった多くの子どもたちの霊を慰め、世界に平和を呼びかける。

碑文「これはぼくらの叫びです これは私たちの祈りです 世界に平和をきずくための」

1. 佐々木禎子さん

2 歳の時被爆した佐々木禎子さんは、幸いけがもなく、元気で活発な少女に成長しました。ところが、10 年後の小学校 6 年生の時に突然白血病と診断され、8 か月間の闘病生活の後、1955（昭和 30）年 10 月 25 日に短い生涯を終えました。禎子さんは「鶴を千羽折ると病気が治る」と信じ、薬の包み紙や包装紙などで 1,300 羽以上の鶴を折り続けました。病気を乗り越え、懸命に生きようとした「サダコ」の物語は、ヒロシマの悲劇の象徴として、日本だけでなく海外でも広く語り継がれています。

2. 子どもたちの運動

禎子さんの死に衝撃を受けた同級生たちは、「原爆で亡くなったすべての子どもたちのために慰霊碑をつくろう」と全国へ呼びかけました。やがて、子どもたちによる募金活動が始まり、全国 3,100 校余りの生徒と、イギリスなどの国外からの支援により、像を完成しました。

3. 鐘と金色の鶴

塔の内部には、子どもたちの気持ちに感動したノーベル物理学賞受賞者の湯川秀樹博士の筆による「千羽鶴」、「地に空に平和」の文字が彫られた銅鐸を模した鐘がつられ、その下に金色の鶴がつるされ、風鈴式に音が出るようになっています。（この鐘と鶴は 2003（平成 15）年に複製されたもので、オリジナルは広島平和記念資料館東館 1 階ロビーに展示されています。）

4. 折り鶴台（ブース）の整備

この「原爆の子の像」に捧げられる数多くの折り鶴を雨露から守るため、2002（平成 14）年 4 月に、像の周囲に新たに屋根付きの折り鶴台（ブース）が整備されました。

禎子さんが亡くなった 1950 年（昭和 30 年）頃の広島

占領期にはアメリカによって原爆報道は制限されており、1951（昭和 26）年にサンフランシスコ講和条約が結ばれてから、ようやく原爆被害に対する研究や報道が進み、一般の人々にも被爆状況が知られるようになりました。

1955（昭和 30）年当時は、被爆者の死がニュースとして新聞に掲載されるなど、「原爆症」の報道はたびたび行われ、被爆者は次は自分ではないかという不安や、周りの人からの無理解に苦しめられました。

<原爆と白血病>

1950（昭和 25）年から 1953（昭和 28）年をピークとして被爆者に白血病が多くみられました。被爆者と被爆していない人の白血病の症状に違いはなく、放射線が原因かどうかは分かりません。しかし、大量の放射線を受けた被爆者には、被爆していない人よりも高い割合で白血病がみられるため、放射線の影響があると考えられています。白血病とは血液のうち、外から侵入した細菌と戦う機能を持つ白血球が、がん細胞に変わって増え続ける病気です。増えたがん細胞である白血球は未熟な役に立たない細胞で、逆に成熟した白血球や血小板は減ってしまいます。このため、細菌に対する抵抗力が弱まったり、出血しやすくなります。リンパ節のはれや、発熱、貧血、出血によるあざなどの症状がみられます。悪化すれば死に至る病気です。

<被爆者の暮らし>

被爆者の中には健康不安と貧困に苦しむ人も少なくありませんでしたが、特別な援護は、ほとんど行われていませんでした。大きな転機にさしかかったのは、顔や腕などにケロイドが残る若い女性いわゆる「原爆乙女」の問題が注目され始めた 1951（昭和 26）年ごろです。この治療活動は、それまであまり知られていなかった被爆者への関心を高めました。

<理解されなかった「原爆症」>

原爆でどのような後障害があらわれるかという医学的研究成果の発表は、占領下では厳しい制限を受けました。1951（昭和 26）年にサンフランシスコ講和条約が結ばれてから、ようやく原爆問題に対する自由な論議ができるようになったのです。しかし、1955（昭和 30）年当時、放射線の影響についてはよく分かっておらず、「原爆症」はうつるなどの偏見を持つ人もいました。

<高まる原水爆禁止の気運>

1954（昭和 29）年 3 月、ビキニ環礁で日本のマグロ漁船「第五福竜丸」がアメリカの水爆実験で被曝しました。乗組員が放射線による健康障害で入院し、半年後に一人が亡くなったことに日本中がショックを受けました。これをきっかけに、原水爆禁止を求める運動が活発になり、1955（昭和 30）年第 1 回原水爆禁止世界大会の実現へと結び付けました。こうして広島、長崎の原爆被害が世界に伝えられました。1957（昭和 32）年、「原子爆弾被爆者の医療等に関する法律案」（原爆医療法）が制定され、被爆者の健康診断や医療が国により行われるようになりました。本格的な被爆者援護がようやく始まったのです。

⑤レストハウス

建立年月日

1929（昭和4）年3月

設計者 増田清

形状

鉄筋コンクリート造

地上3階、地下1階

特記事項



1. 大正屋呉服店

この建物は、大阪に本店を持つ大正屋呉服店が、対岸の細工町から新築移転したもので、木造家屋が主流の当時としてはめずらしい鉄筋コンクリートのモダンな建物でした。1～3階はショーウィンドウのある売場で土足が可能で、屋上からは市内が一望できました。

2. 戦時体制へ

1943（昭和18）年12月、繊維統制令により呉服店は閉鎖され、被爆当時は、他の耐火建物と同じく国策の統制会社である広島県燃料配給統制組合が建物を取得し、使用していました。

3. 被災状況

爆心地から170m、原爆により屋根が押しつぶされ、内部も破損、地下室を除いて全焼しました。しかし、爆心地の近くでありながら爆心地側に開口部のほとんどない強固な建物だったためか、基本的形態はとどめました。被爆当日、この建物には37人が勤務しており、そのうち8人は傷つきながらも建物を脱出しましたが、たまたま地下に書類を取りに下りていた1人（1982（昭和57）年6月死亡）を除きその後全員死亡しました。

4. 戦後の修復

戦後は早い時期に補修され、引き続き燃料関係の組合や会社が燃料会館として使用しました。

5. レストハウス

平和記念公園の建設に伴い、取り壊すかどうかの議論がありましたが、1957（昭和32）年に広島市が買収し、東部復興事務所として使用しました。その後大幅に改修され、1982（昭和57）年からは平和記念公園レストハウスとして使用されています。なお、地下室は現在も被爆当時の姿をとどめています。

⑥原爆ドーム

竣工年月日（広島県物産陳列館）

1915（大正4）年4月5日

建立者 広島県（1953（昭和28）年広島市へ譲渡）

設計者 ヤン・レツル（現在のチェコ出身の建築家）

形状



レンガ（一部鉄筋コンクリート）モルタル仕上げ、玄関部分は石造りで地上3階一部5階建て、地下1階のセセッション様式と呼ばれる建築物で曲面を多用しているのが特徴。

1. 広島県物産陳列館

広島県物産品の販売促進を図る拠点として造られた広島県物産陳列館は、大胆なヨーロッパ風の建物で、県下の物産品の展示・販売のほか、博物館・美術館としての役割も担っていました。その後、広島県立商品陳列所、広島県産業奨励館と改称し、戦争が激しくなった1944（昭和19）年3月には産業奨励館としての業務が廃止され、内務省中国四国土木出張所や広島県地方木材・日本木材広島支社などの統制会社の事務所として使用されていました。

2. 原爆ドーム

原爆の投下により、建物は一瞬にして大破し、天井から火を吹いて全焼、中にいた30人余りの人々は全員死亡したと伝えられています。爆風がほとんど真上から働いたため、壁の一部は倒壊を免れ、ドームの鉄枠とともに象徴的な姿をさらしました。そして、その形から、占領が明けた頃には「原爆ドーム」という言葉が広く使われ始めました。

3. ドームの保存

ドームの保存については、「原爆による惨禍の証人として保存する」という意見と、「危険物であり、被爆の惨事を思い出したくないので取り壊す」という意見が対立しましたが、1966（昭和41）年に永久保存を決定、広く募金を呼びかけ、これまで3度の保存工事が行われました。

4. 世界遺産への登録

人類史上最初の原子爆弾による被爆の惨禍を伝える歴史の証人として、また、核兵器廃絶と恒久平和を求める誓いのシンボルとして1996（平成8）年12月「世界遺産条約」に基づきユネスコの世界遺産一覧表に登録されました。

⑦元安橋

竣工年月日

1926（大正 15）年

（被爆当時の橋）

架替年月日

1992（平成 4）年 5 月 25 日

建立者 広島市

形状

旧 橋：全長 49.9m、幅 6.95m

架け替え後：全長 56.4m、幅 16m



特記事項

1. 被爆前の元安橋

もともとは、毛利輝元が広島城下を建設したときに架けられた橋で、輝元の祖父・毛利元就の子の元康が架け渡したことからその名が付けられたと伝えられています。被爆した橋は 1926（大正 15）年に架けられ、兩岸の親柱の上には、しゃれた球形の飾り照明が、その間には照明灯が設けられるなど、当時としてはとてもモダンな造りでした。飾り照明などに使われていた金属類は、すべて戦時中に供出され、親柱の上は石の点灯箱に替えられていました。

2. 被災状況と爆心地の推定

橋げたは原爆に耐えましたが、親柱の上の笠石は左右逆方向にずれ、欄干も橋の両側にそれぞれ落ちました。この状況から、爆心地は橋の延長線上に位置すると推定されました。

3. 架け替え

旧橋は被爆後 40 年以上にわたって利用されてきましたが、老朽化が進んだため、1989（平成元）年から架け替え工事が始まり、1992（平成 4）年に開通しました。架け替えにあたっては、被爆した親柱 4 基、中柱 2 基を利用し、竣工当時を再現したデザインとしました。

4. 歴史の証人

元安橋東詰めには、被爆した旧橋の中柱 2 基が、歴史の証人として保存してあります。

⑧爆心地・島病院<原爆被災説明板>

建立年月日

1933（昭和8）年8月31日（開院）

形状（当時の島病院）

近代的なレンガ造2階建てで、玄関の両サイドの丸柱と円形窓が印象的な建物だった。



説明板

「テニアン島から飛来した米軍機 B-29「エノラゲイ号」から人類史上最初に投下された原子爆弾は、この上空約 600m で炸裂しました。爆心直下となったこの一帯は約 3,000～4,000 度の熱線と爆風や放射線を受け、ほとんどの人びとが瞬時にその生命を奪われました。時に 1945（昭和 20）年 8 月 6 日午前 8 時 15 分のことでした。」

1. 爆心地

当時：広島市細工町 29-2、島病院上空

現在：中区大手町一丁目 5-24、島外科南側大手町第 3 駐車場上空

東経 132 度 27 分 27 秒、北緯 34 度 23 分 29 秒、高度約 600m

2. 原爆炸裂の瞬間

T字型の相生橋を投下目標にしたとされる原爆は、島病院の上空約 600m で炸裂しました。小型の太陽ともいえる灼熱の火球は直径 280m に膨れ上がり、中心温度はセ氏 100 万度を超えました。爆心地周辺の地表面の温度は 3,000～4,000 度にも達し、秒速 440m の爆風が吹きぬけました。（鉄の溶ける温度は約 1,500 度、太陽の表面温度は約 6,000 度）

3. 爆心地の推定

熱線による影の方向を基礎データとし、その方向を地図上に落とし、交差する地点を爆心地としました。

4. 島病院の被災状況

被爆当日、島病院の院長（島薫）は出張診療で不在だったため難を免れました。建物は瞬時に壊滅し、約 80 人と推定される患者・看護婦などの病院内にいた人は全員が亡くなり、姿は跡形もなかったといえます。

◎広島アンデルセン・・・ 損保平和交流集会会場

1. 旧三井銀行広島支店として1925年に竣工

ルネッサンス様式を基調に、正面玄関には上下に異なる柱頭(1階はドーリア式、2階はコリント式)がついた丸い石柱、開口部はアーチ型をはさんでパラディアンウインドーと呼ばれる3連の矩形窓を配置。外壁は岡山産万成石(花崗岩)、内部はイタリア産大理石が使われていました。

2. 帝国銀行広島支店となり、1945年8月被爆

爆心地から東方360mに位置し、爆風によって大破、さらに火災によって全焼。爆心側の西壁は大半が崩壊し、北壁は亀裂を生じ屋根の半分が落下。この建物の破壊が徹底的であり印象的であったため、一時は、被爆地ヒロシマの象徴としてこの建物を残すか、産業奨励館(現原爆ドーム)を残すかの議論が交わされました。

1950年、建物は修復され、別の場所で仮営業していた帝国銀行が復帰。帝国銀行は行名を三井銀行に戻し、1962年までこの場所で営業。建物の老朽化により移転。その後この建物は、広島銀行を経て、農林中央銀行広島支所に。

3. タカキパーカリー、農林中央銀行広島支所より建物を購入

銀行を買い取ったもののどう使うかに迷い、創業者・高木俊介夫妻が訪欧。

ローマ、ミラノ、チューリッヒをまわり、ローマで菓子メーカーの大型店舗「モッタ」「アレマニア」が歴史的な堂々とした建物の中で、非常に現代的な新しい感覚の商売をしているのを目の当たりにしました。古いものを大切に生かし、その雰囲気の中から新しいものを育てている有様に感動した二人は、旧三井銀行広島支店の古い建物をそのまま継いで、北欧を基調にした「アンデルセン」を創ろうと決意しました。

4. 広島アンデルセン オープン

正面の柱を除去し、北東部・北西部に入り口を新設。

吹き抜けの2階部分をレストランとして活用。被爆にも耐えた金庫室は扉を撤去しそのまま、パン製造のための冷蔵庫として利用していました。



1925年



被爆直後



現在

⑩広島市立高女原爆慰霊碑

(広島市立高女…広島市立高等女学校(市女)。現在の広島市立舟入高等学校)

建立年月日 1948(昭和23)年8月6日

建立者 広島市女原爆遺族会

制作者 河内山賢祐(彫刻家)

形状 高さ1.77mの万成石の碑で、正面には3人の少女のレリーフ、碑陰には、当時の宮川校長の弔歌が刻まれている。

建立の目的 原爆の犠牲となった職員生徒の慰霊

銘文「友垣にまもられながらやすらかに ねむれみたまよ
このくさ山に」(宮川雅臣)



1. 市女の犠牲者

現在の平和記念資料館～平和大通り一帯(爆心地から約500m。当時は材木町～木挽町)の建物疎開作業に来ていた1、2年生541人、職員10人は、全員が亡くなりました。同校では他の動員先を含め、676人が被爆死し、市内の学校では最も多くの犠牲者を出しています。(碑の裏の短歌作者は当時の校長です。)

2. レリーフの説明

中央で $E=MC^2$ と刻んだ箱を抱え、天使の翼をもつ制服・モンパ姿の少女は犠牲となったことを表し、両側から友のささげる花輪(慰霊)とハト(平和)に守られています。

3. 「 $E=MC^2$ 」

原爆の原理になったアインシュタインの相対性理論からとられた原子力エネルギーの公式です。連合軍の占領下、「原爆」という文字が使用できなかった当時の事情を表しています。

4. 碑の移設

1946(昭和21)年、現在の平和大通りの場所に木碑の供養塔が建てられ、3回忌まではそこで慰霊祭が行われていました。

現在の碑は、1948(昭和23)年に学校の奉安殿跡の草山に建てられたものです。当時は占領下で慰霊碑の建立が許されず、「平和塔」の名で建立されました。被災地近くの現在地に移設されたのは、13回忌の1957(昭和32)年6月20日です。

なお、当初の木碑供養塔は、1950(昭和25)年に都市計画のため、木挽町にあった持明院に移され、1951(昭和26)年には境内に「市立高等女学校原爆追悼碑」が建立されました。1967(昭和42)年、持明院の東区戸坂千足への移転に伴い、追悼碑も移設されました。

○「平和のとりくみ実行委員会」より

「建物疎開」とは、焼夷弾が落とされたときに県庁などの県や軍の重要施設を守るために、一般の民家などを壊して更地にし、「防火帯」をつくるのが目的だったそうです。その「建物疎開」の作業に多くの学生が借り出されました。「子どもたちに、危険な土木作業はさせられない」と反対を表明し、作業に行かせなかった学校も2校あったと聞いています。その校長は「非国民」「国賊」と軍だけではなく親たちにもなじられたそうです。

⑪マルセル・ジュノー博士記念碑

建立年月日

1979（昭和54）年9月8日

建立者

ジュノー博士記念碑建立会

制作者

芥川永（当時・比治山女子短大教授）

形状

長方形の台座の上に、黒みかげ石の十字型の碑。

博士のレリーフの左右に日英の碑文が刻まれている。（高さ93cm、幅1.6m）



建立の目的

被爆者救護に人道的立場から尽力した博士の功績をたたえるため。

碑文（英文併記）

「1945年8月9日、赤十字国際委員会の駐日主席代表として来日 広島原爆被災の惨状を聞くや直ちに占領軍総司令部へ行きヒロシマ救援を強く要請

9月8日調達した大量15吨の医薬品と共に廃墟の市街へ入り惨禍の実情を踏査 自らも被爆市民の治療にあたる

博士の尽力でもたらされた医薬品は市内各救護所へ配布 数知れぬ被爆者を救う 博士の人道的行為に感謝し 国際赤十字のヒューマニズムを讃え永く記念してこれを建てる」

1. マルセル・ジュノー博士（Dr. Marcel Junod）1904～1961）

スイスの医学者。1945（昭和20）年8月9日、赤十字国際委員会の駐日主席代表として来日した博士の当初の目的は、連合軍捕虜などの動静を調査することでした。

しかし、原爆被害の惨状を知ると直ちに連合軍最高司令官総司令部へ救援を要請し、調達した医薬品を持って9月8日に広島入りしました。現地では、被害調査に当たるとともに自らも治療に携わりました。

2. 裏面の碑文

「無数の叫びがあなたたちの助けを求めている

○「平和のとりにくみ実行委員会」より

ジュノー博士が日本に持ち込んだ医薬品は実際は18トンを3トスが盗まれ闇市に出回ったそうです。また博士は広島原爆の惨状を目の当たりにし「医薬品を送れ！」の打電を国際赤十字に対し何度か行ったのですが、米軍が妨害し医薬品は入ってこなかったとのこと。その理由は①世界にあまりの惨状を知られたくない為、報道管制をひいたこと②原爆投下自体が核兵器の人体実験の貴重な資料であるため、できるだけ「ありのままのデータ」が欲しかったから、とされています。

⑫被爆したアオギリ

移植年月日

1973（昭和 48）年 5 月

アオギリ

樹皮が緑色で葉がキリに似ているので、青桐と名がつけました。

幹や枝は緑色で小枝はやや太くなります。

枝先に 30～50cm の枝分かれした花の茎を出し、6～7 月頃、黄色い花を数多く咲かせます。



1. 被爆前のアオギリ

爆心地から約 1.3km 離れた、中区東白島町の広島逓信局の庁舎（現在の日本郵政グループ広島ビル。以前の中国郵政局）の中庭にありました。

2. 熱線・爆風の影響

爆心地方向にさえぎるものがなかったため、熱線と爆風をまともに受けました。そのため枝葉はすべてなくなり、幹は爆心側の半分が焼けました。

3. 奇跡的な再生

枯れ木同然だったこの木は、翌年の春になって芽吹き、被爆と敗戦の混乱の中で虚脱状態にあった人々に生きる勇気を与えました。

4. 平和記念公園への移植

中国郵政局の建替えに伴い、1973（昭和 48）年 5 月、現在の場所へ移植され、原爆の被害を無言のうちに語り続けています。

5. アオギリ 2 世

移植で枯死するのではないかと心配されたアオギリは、その後も毎年、種子をつけています。これらの種子は国内外へ贈られ、多くの 2 世が元気に育っています。

⑬旧天神町北組慰霊碑

建立年月日

1973（昭和48）年2月

建立者

旧天神町北組町民

形状



花崗岩でできた碑の前面に碑文、上部に犠牲者の名前が記されている。

建立の目的

消えた町と、犠牲となった町民たちの名前をとどめ、冥福を永く祈るため。

碑文 「昭和20年8月6日 噫」

1. 天神町北組

天神町は南北に細長く、北組・南組に分かれていました。町は市内の繁華街の中心として栄えた中島地区の一角で、商店街として多くの人が生活する活気あふれる町でした。その様子は、碑と並ぶ「旧天神町北組の跡」という説明板に記されています。（南組の碑は、平和大通り南側の元安川河畔にあります。）

2. 消えた町

天神町は爆心地からわずか500m、一瞬にして家屋は全壊、住民はもちろん、隣接する町とともに建物疎開地域に指定されていたため、作業に動員されていた中学生や女学生も全員即死したといわれています。火災は激しく、夕方、肉親を探して戻ってきた人も入ることができなかったといえます。焼け野原と化した町は、戦後、平和記念公園となったため、その姿を消しました。

3. 梅の木

1970（昭和45）年、NHKによる爆心地復元作業をきっかけに、なくなった町のシンボルとして1本の梅の木が植えられました。梅が選ばれたのは、天神町にあった満松院菅神社ゆかりの樹であったためです。

4. 碑の移設

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の建設に伴い、1999（平成11）年当初よりやや南側の現在地へ移設されました。

○「平和のとりにくみ実行委員会」より

犠牲者の方々の名を刻む碑のところどころに「〇〇某」「〇〇子ども」と記されているのは、まさしく「消えた町」だから。町外の人々の記憶に頼るしかなかったのでしょう。東日本大震災で町ごと津波に押し流され、未だに供養もできない多くの人々とかぶってしまいいたたまれません。

⑭被爆した墓石(慈仙寺跡の墓石)

建立年月日

1689(元禄2)年

形状

五輪塔(台座付き)。24枚の花弁で飾った台座の上に「地」の文字のある四角な石、その上にはそれぞれ「水」「火」「風・空」の文字を彫った三つの石が据えてあった。



1. 慈仙寺跡

当時、太田川が元安川と本川に分かれるあたりは「慈仙寺の鼻」と呼ばれていましたが、それはここに慈仙寺という浄土宗の大きなお寺があったからです。その慈仙寺は爆心地から約200mで、全ての建物は壊滅、住職ほか2名は清掃中に即死、浴室で洗濯中の住職の妻も重傷で翌日死亡し、結局全員が亡くなりました。

2. 墓石と爆風

強烈な爆風で境内にあったたくさんの墓石も吹き飛ばされ散乱しました。被爆当時の姿で残されているこの墓(爆心地から約270m)は、広島藩浅野家御年寄の岡本宮内のものです。

3. 被爆当時の地面

平和記念公園の中で、被爆当時の地面をそのままとどめているのは、この墓地だけです。公園が盛り土して建設されたため、周囲を石で囲んで、池の底のようになってしまったこの部分が当時の地面です。(斜め前に落ちている「風・空」の部分はひとつの石ですが、流れ込んだ砂で、下側の「風」の部分が埋まって見えなくなっています。)

4. 現在の慈仙寺

1946(昭和21)年、応召中だった住職の長男が復員し、復旧作業がはじまりました。現在は中区江波二本松にあり、これ以外の墓は移されました。

○「平和のとりにくみ実行委員会」より

墓石が散乱しているのは爆風が渦を巻いた(真空状態になり、爆風の吹き戻しがあつたのかも)とされています。熱線と放射線、爆風による衝撃・破壊はすさまじく、墓石に触れてみると面によってザラつき感の違いがわかります。

⑮ 韓国人原爆犠牲者慰霊碑

建立年月日

1970（昭和 45）年 4 月 10 日

建立者

韓国人原爆犠牲者慰霊碑建立委員会

形状

亀を形どった台座の上に碑柱が立ち、その上には双竜を刻んだ冠が載せられている。（「死者の霊は亀の背に乗って昇天する」という故事に倣う）碑石はすべて韓国の銘石で、現地で製作され運ばれた。



建立の目的

強制労働等により広島で被爆した同胞の慰霊と、再び原爆の惨事を繰り返さないことを願うため。

碑文（裏面）日本語訳

「悠久な歴史を通じて、わが韓民族は他民族のものをむさぼろうとしなかったし、他民族を侵略しようとはしませんでした。（中略）しかし、5 千年の長い民族の歴史を通じて、ここにまつた 2 万余位の霊が受けたような、悲しくも痛ましいことはかつてありませんでした。韓民族が国のない悲しみを骨の髄まで味わったものが、この太平洋戦争を通してであり、その中でも頂点をなしたのが原爆投下の悲劇でありました。……」

1. 日韓併合と強制連行

明治維新以後、朝鮮支配を進めた日本は、1910（明治 43）年の日韓併合により朝鮮を植民地としたため、生活基盤を失った多くの人々は職を求め日本に渡らざるを得ませんでした。また、戦時中の労働力不足を補うため、強制連行や徴用によって多くの朝鮮人が日本で働かされ、敗戦時、日本には約 300 万人の朝鮮人がいたといわれています。

2. 原爆による犠牲者

当時広島市内には、数万人にのぼる朝鮮人がいて被爆したといわれています。

3. 平和記念公園内への移設

碑は、朝鮮王家の一族李殿下が原爆被災後にその姿を発見された場所に近いという“ゆかり”から本川橋西詰めに建立されました。その後平和記念公園内への移設について各方面から強い要望が出され、広島市と関係者との協議により、1999（平成 11）年 7 月公園内に移設されました。移設後は、双竜を刻んだ冠の中に納めていた死没者名簿は、亀座部分前方地面の箱の中に納められています。

○「平和のとりくみ実行委員会」より

当時は「創氏改名」で日本名を名のらされる人が多く犠牲者の数も正確にはわかりません（7 万人ほどと言われている）移設に際し「南北統一したら考える」など根強い反対もあり、「差別の碑」とも呼ばれています。

<本ガイドブック作成にあたり以下を参考としました>

- 広島平和記念資料館WEBS I T E <http://www.pcf.city.hiroshima.jp/>
- 広島市役所ホームページ
- 青空文庫ホームページ
- 広島アンデルセンホームページ
- 「ヒロシマの声を聞こう 原爆の碑と遺跡が語るもの」原爆碑・遺跡案内刊行委員会
- 「こどもたちの見た戦争 はだしのゲンとともに」 平和資料館編
- 「ピースナビゲーター養成講座資料」 広島被団協
- 「ヒロシマの碑をたずねて」全損保広島地協

2013年8月6日

全損保広島地協連絡会「平和のとりくみ実行委員会」制作